

生坂村有害鳥獣駆除対策協議会 要旨

1. 日 時 令和3年1月20日(月) 午後3時00分～
2. 場 所 村民会館 講堂
3. 出席者 藤澤泰彦(村長)、小原太郎(松本ハイランド農協川手営農センター長)、山崎健一(松本ハイランド農協生坂支所長)、石川君二(村猟友会長)、久保田茂樹(村農業委員会会長)、瀧澤勉(県農業共済組合安曇野支所)、薄井健(松本広域森林組合筑北支所長)、一ノ瀬貞男(村議会)、字引文威(村議会)、丸山勝治郎(村区長会長)、古幡大(生坂村駐在所長)、竹松清志(松本地域振興局林務課)、中山茂也(振興課長)、藤澤保(産業係長)、瀧澤和旦(建設係)
4. 開 会 【振興課長】
会議冒頭において、昨年5月に山本農業委員会会長に変わり新たに久保田農業委員会会長が就任し、当協議会副会長も変更になった旨を説明。

5. あいさつ 【久保田副会長】

6. 議 事

(1) 鳥獣の被害状況等について

説明事項

イノシシ、ニホンジカ、サル、カラス、熊について、本年度の出没・目撃情報と被害状況を報告。また、広域鳥獣防止柵等の整備状況、鳥獣被害防除機具設置事業補助金の内容と実績、村による狩猟免許の取得および更新に係る補助金について説明し、猟友会による有害鳥獣駆除の概要と現在までの捕獲実績を報告。

委員からの質問意見

特になし

(2) 今後の有害鳥獣対策について

説明事項

近隣市町村(安曇野市・池田町・松川村・大町市)の取り組みと状況を紹介したうえで、当村における防除、駆除、追い払いについて現状、課題について説明。

委員からの質問意見

Q. ニホンザルは猟友会で駆除できるのか

A. ニホンザルはどこにいるか分からず駆除が難しい。生坂村でサルにGPSを付けても、ほとんどが大町の方に住んでいてたまに出てくるだけで、効果は薄いと思われる。最近の出没場所も大町市と池田町との境にしか出てこないため、大型の捕獲檻を設置したとしても、頭数が少なくおそらく捕獲できないと思われる。

Q. 北アルプス地域において広域的な対策はしているのか。

A. 北アルプス地域振興局ではサル対策として広域的な取り組みはしていない。

Q. 広域防護柵内に入っているシカやイノシシに困っている。

A. 川の対岸や国道・県道から入るというのもあるが、ほとんどは倒木などによって侵入防止柵が壊れ、修繕できない場所から入っている。地元の皆さんも大変だと思うが、まず柵を補修して、維持管理をしていただきたい。侵入してしまったものは、猟友会による罾での捕獲のほか、個人や団体に設置する電気柵の補助を手厚くしているので、二重の対策として取り組んでいただきたい。

Q. シカがいつも通る場所などが分かっている場合、振興課にお願いしたら、罾を設置してもらえるのか。

A. 設置することはできるが、罾は設置して終わりではなく、毎日その罾を確認して回らなければならない、できる数には限りがある。今の猟友会の人数では、もう、決まった頭数までしか対応できないので、できる限り多くの人に罾の狩猟免許を取ってもらいたい。

Q. 役場職員で銃を所持して駆除に意欲的な職員はいないか。

A. 課長会議等で検討します。

Q. 電動エアガン等で打つとしばらく寄り付かなくなるのか。

A. 猿はその群れごとに縄張りがあり、その縄張りの中を周回している。

安曇野市において過去に追い払いの実証をし、3回追いかけることで追い払うことができた。もちろん防護柵を設置して、あわせて追い払う。そうすることで猿が山に帰って、また出てくるまでにしばらく時間がかかり、出戻したら3回追いかけるということを繰り返して、その圃場は猿の被害がなくなったという実例がある。

Q. 松本市と安曇野市では、集落捕獲隊という組織を作って、罾の仕掛けとかかった後の処理を猟友会、罾の見回りは地域住民が行う仕組みを作っていて補助金もある。この制度を検討してはどうか。

A. 組織を作っても、研修等を行わなければならない。また、平日の日中に地域に残っているのは高齢者がほとんどであるため、罾の確認といっても大変だと思われる。また、最終的に処理するのは猟友会なので、罾の資格を持った人を増やすことが必要だと思われる。

Q. 電気柵は電圧が正しく上がっていないと効果が薄い。電気柵の電圧をチェックするボルトメーターを役場に配備して、村民に貸し出ししてはどうか。

A. 前向きに検討したい。

7. 閉 会 【久保田副会長】